

令和 8 年度 歯科衛生学科シラバス

科目名			分野	教育内容	
化学			基礎	科学的思考の基盤人間と生活	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	
1	前期	2	30	講義	
授業の目的	医療関連職種に共通する基礎知識を学ぶ上で必要な化学の基礎的事柄を理解する。				
到達目標	歯科医療に必要な化学の基礎知識を修得する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 化学				
評価方法	筆記試験				

授業計画	回数	項目	授業内容
	1・2	化学の基礎概念 物質とは	純物質、原子同位体、イオン、構造式
	3・4	物質とは 気体	原子量、分子量、物質量、物質の 3 態 ボイルの法則、シャルルの法則
	5・6	気体	アボガドロの法則 分圧
	7・8	溶解	濃度の計算、蒸発と沸騰 飽和水蒸気圧
	9・10	水溶液	浸透、酸とアルカリ、中和 p H
	11・12	酸化還元	酸化数 金属のイオン化傾向
	13・14	有機化学 ヒトの組成	有機化学の歴史、構造異性体糖質 脂肪、タンパク質
	15	まとめ	演習

科目名			分野	教育内容
人間関係とコミュニケーション			基礎	科学的思考の基盤人間と生活
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	2	30	講義
授業の目的	社会に出て役に立つ考え方を学び、身につけ実践できるようになる。			
到達目標	コミュニケーションについて定義、方法を学ぶ。コミュニケーションに関わる心理的な理論を知る。ヘルスカウンセリングを理解する。			
教科書	資料配信			
評価方法	レポート			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	コミュニケーションの定義	定義について説明する
	2	基本的対話スキル	聞く、話すの基本、上手な質問のスキル
	3・4	グループでの会話の基本	会話 グループの会話の基本
	5・6	自己表現スキル	交渉と説得のコミュニケーションについて説明する 上手な断り方、上手な頼み方
	7	トラブルのもととなる感情への対処法	怒りの感情の取り扱い方、怒りの伝え方
	8・9	社会的スキル 対人行動	基本的な社会的スキルマナー 仕事に対する姿勢
	10	その人らしさの心理	パーソナリティーの特徴
	11	考える心	思考の働きの概説
	12	心の発達	心の発達、対人関係に関わる心理的要因と行動
	13・14	カウンセリング	話し手と聞き手 役割について説明する
	15	医療コミュニケーションについて	医療安全に必要なコミュニケーション

科目名			分野	教育内容
医療英語			基礎	科学的思考の基盤人間と生活
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	2	30	講義
授業の目的	歯科医療について最低必要な英語用語を学び、臨床現場で英語を母国語とする外国人に対する対応力を身につける。			
到達目標	英語を話される外国人の方と最低限のコミュニケーションをとり、治療、指導に関する説明が歯科衛生士側からできるようになる。			
教科書	資料配布			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科医院での付の対応	歯科予約時の対応
	2	歯科医院での受付の対応	患者来院時の対応
	3	歯科スタッフ・院内に関する基本英単語	誘導・案内・施設説明
	4	歯・口腔の部位を表す英単語	各部位の単語・表現
	5	症状・状態を伝える英単語	問診応答例
	6	治療・処置に関する英単語	治療方針説明
	7	診療中の指示・配慮の定型英語表現	患者に対して歯科衛生業務を英会話にて習得する
	8	診療中の指示・配慮の定型英語表現	患者に対する指示・配慮例文
	9	患者からの要望	問診時の情報収集を英会話形式にて習得する
	10	診療・治療中の会話演習	診療会話演習
	11	診療・治療中の会話演習	治療会話演習
	12	グループワーク	グループワーク
	13	グループワーク	グループワーク
	14	グループワーク	グループワーク
	15	まとめ	まとめ

科目名			分野	教育内容
社会学			基礎	科学的思考の基盤人間と生活
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	2	30	講義
授業の目的	医療制度や医療者などについてどのように変化がみられるのか、なぜ変化してきているのか、医療や健康に関する様々なトピックスを通して学ぶ。			
到達目標	社会学的観点から医療に関する問題について学ぶ。			
教科書	資料配布			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	社会福祉総論	社会保障制度社会福祉
	2	社会福祉総論	社会福祉六法
	3	社会福祉各論	包括扶助制度
	4	社会福祉各論	児童福祉制度
	5	社会福祉各論	母子父子寡婦福祉制度
	6	社会福祉各論	障害者福祉
	7	社会福祉各論	身体障碍
	8	社会福祉各論	知的障害雇用促進
	9	社会福祉各論	精神霜害
	10	社会福祉各論	障害者の総合的支援
	11	社会福祉各論	高齢者の福祉
	12	社会福祉各論	健康日本2 1 福祉施設
	13	社会福祉各論	高齢者医療
	14	社会福祉各論	高齢者介護
	15	社会福祉各論	地域包括ケアシステム

科目名			分野	教育内容
情報処理			基礎	科学的思考の基盤人間と生活
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	後期	2	30	講義
授業の目的	パソコンによる基本的な作業のための知識の習得を目的とする。			
到達目標	ビジネスの場におけるパソコンの取り扱いを身に着ける。 ワード・エクセルを用い文章作成や表計算の基礎的な記述を身に着ける。 パワーポイントを用いプレゼンテーション資料の作成の技術を身に着ける。			
教科書	プリント配布			
評価方法	学修成果評価			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1～3	パソコン基本操作	用途とその背景 起動、入力、保存 コピー、削除、設定
	4～7	文書作成	形式・印刷・文章入力など 企画案内、議事録、通達、書類作成など図表やイラストの挿入など課題作成
	8～11	表計算	数値入力 数値計算 数値図表化 課題作成
	12～14	プレゼンテーション	スライドの作成 スライドの編集 スライドの発表
	15	まとめ	情報処理まとめ

科目名		分野	教育内容	
解剖学		専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	2	30	講義、実習
授業の目的	解剖学は正常な生体の構造を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な基礎知識を身につける			
到達目標	歯科衛生士として必要な、人体を構成する細胞、組織の基本的構造と その働き、人体の発生の基本を理解する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業項目
	1	序章	1－人体の構造と機能を学ぶにあたって
	2	I 編 1 章 細胞と組織	1－細胞
	3	I 編 1 章 細胞と組織	2－組織
	4	II 編 1 章骨格系	全身
	5	II 編 2 章筋系	全身
	6	II 編 3 章消化・吸収	消化器の構造
	7	II 編 4 章循環	全身の動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ・脾臓
	8	II 編 5 章神経系	中枢神経系・脳の血管
	9	II 編 5 章神経系 II 編 6 章呼吸	末梢神経系呼吸・呼吸器の構成
	10	II 編 7 章感覚 II 編 11 章生殖	外皮・感覚器の構造生殖器構造
	11	口腔解剖 I 編 2 章口腔付近の解剖	口腔とは口腔を構成する骨
	12	口腔解剖 I 編 2 章口腔付近の解剖	頭頸部の筋と作用顎関節
	13	口腔解剖 I 編 2 章口腔付近の解剖	口腔付近に分布する脈管系
	14	口腔解剖 I 編 2 章口腔付近の解剖	神経
	15	まとめ	まとめ

科目名		分野	教育内容	
生理学		専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	1	15	講義
授業の目的		ヒトの生命現象を機能的側面から考察し、生体のホメオスタシス（恒常性）維持にかかる働きをミクロからマクロに至る幅広い視野で学ぶ。またそれらの機能が体内・体外の環境変化に応じて常に最適解を導くよう動的に作用できる仕組みを知る。生体としてのヒトを対象とする医療は、局所的な知識のみで対応できるものではない。根拠に基づく医療を提供するため、生理学の講義では全身のダイナミクスを総合的かつ科学的に理解し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。		
到達目標		1.生体のホメオスタシス維持について説明できる。 2.生体の運動機能・感覚機能・自律神経機能について説明できる。 3.内分泌系の作用機序と生体制御機構について説明できる。 4.体液の分類及びその産生と機能について説明できる。 5.呼吸器・循環器・消化器・生殖器の機能と制御機構について説明できる。		
教科書		歯科衛生士テキスト 生理学 学建書院		
評価方法		筆記試験		
実務経験教員科目		歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。		

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	生理学の意義・細胞	1.生理学を学ぶ意義と生命現象の特徴について概説する。 2.ホメオスタシス（生体恒常性）について説明する。 3.細胞の基本構造と細胞内小器官の機能について説明する。 4.細胞の基本的な機能（受動輸送、能動輸送ならびに興奮及び電気現象）について説明する。
	2	体液 体液の循環（その１）	1.体液の組成について概説する。 2.血液の組成について説明する。 3.血球の種類と機能について説明する。 4.血液凝固の機序について説明する。 5.血液型（ABO 式、Rh 式）の分類方法について説明する。 6.リンパ液及び脳脊髄液 の機能について説明する。 7.血液循環について説明する。 8.心筋の特性について説明する。 9.心拍数、心拍出量、脈波、心音について説明する。 10.心臓の電気現象（心室筋細胞の活動電位、心電図の基本波形）について説明する。
	3	体液の循環（その２）	消化及び吸収について説明する。 循環の調節機構について説明する。 パ系の機能及び循環について概説する。 吸と内呼吸について概説する。 量の内訳について説明する。 呼吸と腹式呼吸について説明する。 交換の仕組みについて説明する。 の酸素解離曲線について説明する。

		消化運動の調節機構について説明する。 消化の意義について概説する。 2.消化管各部での消化運動及び消化酵素とその働きについて説明する。 消化運動と消化液の分泌機構について説明する。 栄養素の吸収過程について説明する。
3	体液の循環（その2）・呼吸・消化及び吸収	1.血圧について説明する。 2.血液循環の調節機構について説明する。 3.リンパ系の機能及び循環について概説する。 4.外呼吸と内呼吸について概説する。 5.肺気量の内訳について説明する。 6.胸式呼吸と腹式呼吸について説明する。 7.ガス交換の仕組みについて説明する。 8.血液の酸素解離曲線について説明する。 9.呼吸運動の調節機構について説明する。 10.消化の意義について概説する。 11.消化管各部での消化運動及び消化酵素とその働きについて説明する。 12.消化運動と消化液の分泌機構について説明する。 13.各栄養素の吸収過程について説明する。
4	尿の生成及び排出・代謝・体温	1.腎ネフロン構造と機能について説明する。尿の一般性状について説明する。 2.尿の生成機序について説明する。体液平衡の機能調節について概説する。 3.排尿機構について概説する。栄養素のエネルギー量について概説する。 4.体温の変動とその原因について説明する。温の産生機構と放散の機序について説明する。汗腺の種類と発汗の機序について説明する。
5	内分泌・生殖	1.内分泌器官の構造と機能について説明する。 2.各種ホルモンの調節作用について説明する。 3.各種ホルモンの作用及び機能異常について説明する。 4.女性の性周期変化と性ホルモンの関係について説明する。 5.妊娠・分娩と性ホルモンの関係について説明する。
6	筋（その1）	1.筋の種類について概説する。 2.骨格筋収縮の種類とその過程について説明する。 3.骨格筋の収縮の機序について説明する。 4.筋電図について概説する。 5.神経筋単位について説明する。
7	筋（その2） 神経（その1）	1.筋の種類とその特性について説明する。 2.神経線維の基本構造と分類について説明する。 3.興奮伝導の原則について説明する。 4.シナプスにおける興奮伝達について説明する。 5.神経伝達物質について説明する。 6.神経系の分類について概説する。

			7.自律神経機構について説明する。 8.脊髄反射について説明する。
	8	神経（その2）・感覚	1.脳幹（中脳、橋、延髄）の機能について説明する。 2.視床下部の機能について説明する。 3.大脳の構造と機能について概説する。 4.大脳皮質の構造と機能について概説する。 5.感覚の分類及び内容について説明する。 6.感覚の一般的特性について説明する。 7.特殊感覚（味覚以外）について説明する。

科目名		分野	教育内容	
生化学		専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	1	15	講義
授業の目的	医療関連職種に共通する基礎知識を学ぶ上で必要な化学の基礎的事柄を理解する。			
到達目標	口腔に特徴的な唾液、プラークの構成成分やそこで生じる現象を生化学的に学び理解する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体構造と機能 2 栄養と代謝			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	化学の基礎概念	化学の基礎知識有機化合物の基礎知識
	2	炭化水素	有機化合物の種類、構造の特徴
	3	物質の構造	酸素を含む有機化合物
	4・5	生体の構成成分	生体を構成する元素と化合物の概要 糖質の種類と構造脂質の種類と構造
	6	タンパク質の構造	タンパク質の構成成分であるアミノ酸の構造
	7	消化吸收	体内でどのように吸収されるのか
	8	核酸	タンパク質の合成について説明数る

科目名		分野	教育内容	
口腔解剖学・組織学		専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	3	45	講義
授業の目的	顔面、口腔及びその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。			
到達目標	口腔と関連する頭頸部各部位の名称と機能を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	口腔解剖学・組織学・生理学	口腔を学ぶにあたっての概要と取り組み方
	2	口腔を作る骨	顔面ならびに口腔を構成
	3	口腔領域に存在する筋肉	頭頸部の筋の構成と機能
	4	口腔領域に存在する脈管	頭頸部の脈管の概説
	5	口腔領域を支配する神経	頭頸部の神経の概説
	6	口腔領域の内臓	口腔領域の内臓の概説乳歯の種類と特徴
	7・8	歯の形態	永久歯の種類 特徴
	9・10	歯の形態	歯の形を理解する実習 スケッチ
	11	歯の形態	乳歯の種類と特徴
	12	歯の形態ならびに構造	歯列と咬合について説明する
	13	エナメル質・象牙質・歯髄の構造と機能	エナメル質・象牙質・歯髄複合体の基本構造
	14	セメント質・歯槽骨・歯根膜の構造と機能	セメント質・歯槽骨・歯根膜の組織学的構造と機能
	15・16	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の初期発生歯 歯周組織の後期発生
	17	歯・口腔・顔面の感覚	口腔顔面領域の神経生理学歯と歯周組織の後期発生
	18	歯・口腔・顔面の感覚	味覚と臭覚咬合と租借・吸テツ
	19	発生・発語	発生機構の概要
	20	唾液	唾液の分泌構造
	21・22	総復習	まとめ 総復習
	23	テスト対策	テスト対策

科目名		分野	教育内容	
口腔生理学		専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	1	15	講義
授業の目的	生理学で学んだヒトの生体機能に関する知識を基に、口腔及び頭頸部に特化した機能システムを学ぶ。顎運動、口腔感覚、唾液分泌などは摂食・嚥下機能に直接関与する機能でありながら、全身では見られない特殊性も有する。またヒトが言語を発する機能も口腔生理学の重要なテーマの一つである。これらの諸機能が整合性を持って総合的に働く仕組みを知る。ヒトの口腔を対象とする医療は、全身を対象とする医学的知識に加えて口腔特有の知識や理解を要求される。その特殊性を理解した上で根拠に基づく歯科医療を提供するため、口腔生理学の講義では口腔機能を総合的かつ科学的に説明し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。			
到達目標	1.味覚を含む口腔諸器官の感覚について説明できる。 2.唾液及び唾液腺の機能について説明できる。			
教科書	「歯科衛生士テキスト 生理学」 覚道幸男・吉田 洋他著 学建書院			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯及び歯の歯周組織の生理	1.歯の硬組織の構造と物理化学的な性状について説明する。 2.歯髄の構造と機能について説明する。 3.歯周組織の構造について説明する。
	2	咬合及び顎運動	1.各種下顎位について説明する。 2.矢状面における切歯点の運動について説明する。 3.水平面における切歯点の運動について概説する。
	3	咀嚼	1.咀嚼の意義と目的について概説する。 2.咀嚼周期について説明する。 3.咀嚼能率について説明する。 4.咀嚼筋の構造と機能について説明する。 5.下顎反射について説明する。 6.咬合力と咀嚼力について説明する。 7.口唇、舌の働きについて概説する。
	4	嚥下・嘔吐	1.咽頭・喉頭の構造について説明する。 2.嚥下反射について説明する。 3.無歯顎者における嚥下咀について概説する。 4.異常嚥下について概説する。 5.嘔吐反射について説明する。
	5	唾液腺及び唾液（その1）	1.唾液腺の構造について説明する。 2.唾液の生成機構について説明する。 3.唾液分泌の神経機構について説明する。
	6	唾液腺及び唾液（その2）	1.唾液の性状と組成について説明する。 2.唾液の働きについて説明する。 3.唾液と歯科臨床の関連性について説明する。

	7	口腔感覚	1.口腔粘膜の感覚点と感覚受容について説明する。 2.歯根膜の感覚について説明する。 3.咬合・歯の部位感覚の意義について説明する。 4.口腔の深部感覚について概説する。 5.口腔の痛覚の意義と特徴について説明する。
	8	味覚・発声及び発音	1.味覚受容器の構造と機能について説明する。 2.基本味の特性について説明する。 3.味覚閾値について説明する。 4.味盲について説明する。 5.味覚の神経機構について説明する。 6.発声器官の構造について説明する。 7.発声の機構について概説する。 8.音声の性状について説明する。 9.音声の種類について概説する。 10.言語音の形成について説明する。 11.感覚性及び運動性の言語中枢について概説する。 12.歯科臨床と発音障害について説明する。

科目名		分野	教育内容	
口腔生化学		専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	後期	1	15	講義
授業の目的	生命現象を連続した化学反応として捉える習慣を身につけるとともに、生命維持に必要な生体分子の代謝過程、口腔諸組織や唾液の成分と機能を理解する。			
到達目標	口腔諸組織や唾液の成分と機能について理解する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	生体における構成要素	細胞の役割
	2	歯の結合組織	歯と歯周組織結合組織歯
	3	硬組織の生化学	血清中のカルシウム石灰化の仕組み骨代謝
	4	石灰化	石灰化が起こる仕組みや血液中のカルシウムやリンの調節機構
	5	唾液	唾液に含まれるたんぱく質、抗菌物質、ph に影響を与える因子について
	6	歯の堆積物	ペリクル、プラーク、歯石の組成や形成の仕組み
	7	免疫	自然免疫や獲得免疫について
	8	リポ多糖	リポ多糖について

科目名		分野	教育内容	
病理学・口腔病理学		専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	2	30	講義
授業の目的	疾患の治療や予防のためには、疾患原因、発生機序及び病態変化の理解が必要である。これらの病理学的特徴を理解するために全身に起こる疾病の概念、病院と病態に関する基本的病理学的知識を習得する。病理学で学んだ基本的病理学的変化をもとにして深い知識を習得する。			
到達目標	病気の本態、病気の原因や成り立ちを理解し病気の診断、治療ならびに予防に関する知識を習得する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	病理学概論,病因論	病理学とは病因論
	2	遺伝性疾患と奇形	遺伝 遺伝性疾患 奇形
	3	循環障害	循環障害 循環障害の種類
	4	代謝障害と退行性病変	細胞障害 変性と物質代謝障害 細胞死
	5	増殖と修復	進行性病変の種類と意義 創傷治癒と再生異物に対する生体の処理法
	6	炎症	炎症の原因と機序 炎症の分類と各炎症の特徴
	7	免疫応答異常	免疫応答免疫応答異常
	8	腫瘍	腫瘍の原因と発生機序 腫瘍の種類と性質 良性腫瘍と悪性腫瘍
	9	歯の発育異常	歯の異常（大きさ、歯数、形態,構造） 歯の萌出の異常
		歯の損傷と着色・付着物	歯の損傷の種類歯の付着物
	10	う蝕	う蝕の疫学と病因 う蝕の分類 う蝕の組織学的分類
	11	象牙質・歯髄複合体の病態	歯髄炎 歯髄の退行性変化 象牙質の増生と知覚過敏症
	12	歯周組織の病態	根尖部歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 歯周組織の病変

	13	口腔粘膜の病変	口腔粘膜に生じる病変 全身性疾患の徴候として見られる口腔粘膜の病変
		口腔領域の嚢胞、歯原性腫瘍	口腔領域の嚢胞 歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍の代表的な疾患 口腔領域の悪性腫瘍
	14	口腔癌	口腔粘膜の潜在的悪性疾患 上皮異形成と上皮内癌 扁平上皮癌
		顎骨の病変	顎骨骨髓炎の種類 腫瘍様病変 顎関節の病変
		唾液腺の病変	唾液腺に生じる病変 唾液腺腫瘍
	15	口腔領域の奇形	顔面と口腔の披裂 口腔の発育異常 口腔顎顔面に異常を来たす奇形症候群
		口腔組織の加齢変化	口腔組織（歯、歯周組織、顎骨、舌、粘膜、唾液腺）の組織変化

科目名		分野	教育内容	
微生物学・口腔微生物学		専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	2	30	講義
授業の目的	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。			
到達目標	人の免疫応答の流れを概説できる。口腔内の感染症の原因となる微生物の特徴を説明できる。化学療法と消毒法、滅菌法の原理と効果を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程 2 微生物学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	感染の成り立ちと発病	微生物の種類
	2	細菌の一般性状と病原性	感染症の種類免疫の概要
	3	ウイルス	ウイルスの性状ウイルス感染症
	4	その他の微生物	真菌について説明する。
	5	宿主防御機構と免疫	非特異的防御機構と特異的防御機構免疫の種類
	6	アレルギー	アレルギー反応の分類と特徴アレルギー反応の機序
	7	化学療法と化学療法薬	化学療法薬の種類と特徴
	8	院内感染対策と滅菌・消毒	滅菌・消毒の方法院内感染の原因と予防法
	9	口腔細菌叢	口腔常在微生物について説明する。 口腔内細菌叢の成り立ち
	10	プラーク、バイオフィルム	プラークの形成機序バイオフィルム感染
	11	口腔感染症	う蝕発生のメカニズムう蝕病原細菌
	12	歯内感染症	歯髄炎に関連する細菌感染 根管と根尖性歯周炎に関連する細菌
	13	歯周病	歯周病の病状歯肉炎と病原因子
	14	その他の口腔感染症	唾液腺の感染症口腔カンジダ症誤嚥性肺炎
	15	細菌培養・顕微鏡観察法	微生物を観察するための方法

科目名		分野	教育内容	
薬理学・歯科薬理学		専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	2	30	講義
授業の目的	近年、高齢化社会をむかえ、薬との係わり合いが密になっている。薬についての正しい知識を深めることは、健康の維持や促進、病気の予防や治療をしていく上で非常に重要なことである。薬を有効かつ最大限の薬理作用が現れるようにはどのようにしたらよいかなどを習得することを目的とする。			
到達目標	薬理学を通して基礎と臨床の接点を理解し、歯科治療に使用される薬物だけでなく、全身疾患への治療薬の知識を習得する。			
教科書	歯科衛生士テキスト 最新薬理学 学院書院			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	I 総論 1.歯科臨床における薬理学・歯科薬理学の意義 2. 薬物療法と医療における薬物	薬理学・薬理学の領域・薬物について説明する。 薬理作用の基本形式と分類薬物療法・日本薬局方・医薬品・医薬品の分類、処方せんについて説明する。
	2	3.薬物作用 4.薬物の作用機序	薬理作用の基本形式と分類、薬理作用と用量について説明する。洗口薬について説明する。 薬物の作用機序について説明する。
	3	5.薬物の適用方法と体内動態	薬物の適用法の種類とその特徴、薬物の体内動態を説明する。
	4	6.薬物の作用を規定する因子 7.薬物の副作用、有害作、相互作用	薬理作用を規定する要因、薬物を連用した場合に起こる現象について説明する。 薬物の一般的・口腔領域に現れる副作用と有害作用、薬物の併用について説明する
	5	II 一般薬理学 2. 中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔・催眠薬、中枢神経興奮薬、中枢神経・精神疾患治療薬について説明する。
	6	1.末梢神経系に作用する薬物 4,緊急対応時用いる薬物	末梢神経作用薬の作用機序・薬理作用・副作用、臨床応用について説明する。 歯科治療時の際に用いる緊急対応薬について説明する。
	7	6.代謝系に作用する薬物 5.消化器系に作用する薬物	糖尿病、脂質異常症、痛風・高尿酸血症、骨粗鬆症に用いる薬物について説明する。 消化器系に作用する薬物について説明する。
	8	3.呼吸器系・循環器系に作用する薬物	循環器系・呼吸器系に作用する薬物について説明する。
	9	III 歯科薬理学 3.痛みに用いる薬物	痛みの特徴、痛覚の伝導路、鎮痛薬について説明する。
	10	4.炎症に用いる薬物	炎症のメカニズム、抗炎症薬について説明する。
	11	1.局所麻酔に用いる薬物 2,止血・抗凝血に用いる薬物	局所麻酔薬の作用機序・分類、特徴について説明する。血液の凝固機序、止血薬、抗凝血薬について説明する。

	12	5 感染症に用いる薬物 1 消毒薬	消毒薬の効果に与える因子、消毒薬について説明する。
	13	2 抗菌薬	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬について説明する。
	14	6.悪性腫瘍に用いる薬物 7.免疫調節に用いる薬物	悪性腫瘍治療薬について説明する。 免疫抑制薬・免疫賦活薬について説明する。
	15	8.腐食薬及び収れん薬 9.歯内療法に用いる薬物 10.歯周病に用いる薬物 11.口腔粘膜疾患に用いる薬物 12,う蝕予防に用いる薬物	収れん薬・腐食薬について説明する。 歯内療法薬について説明する。 歯周疾患治療薬について説明する。 口腔粘膜疾患治療について説明する。 う蝕予防薬について説明する。

科目名		分野	教育内容	
口腔衛生学		専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	2	30	講義
授業の目的	歯及び口腔の組織と全身との関連を知り、その健康と機能増進をはかり、人の健康状態と生活の質を向上させることを学ぶ。			
到達目標	口腔疾患における病因論を理解し、その予防手段の立案に関与して個人及び集団における歯科保健の実践を学ぶ。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	総論	歯・口腔の健康と予防歯・口腔の構造・機能、歯・口腔の付着物
	2	口腔清掃	口腔清掃の意義・口腔清掃法歯磨剤・洗口剤
	3	歯科疾患の疫学	う蝕・歯周病の疫学その他の口腔疾患の疫学
	4	う蝕の予防	う蝕の発生のメカニズムう蝕活動性・う蝕の予防方法
	5	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の性状・代謝・毒性フッ化物によるう蝕予防法
	6	歯周病の予防	歯周疾患の症状・発生機序歯周疾患と全身疾患の関連・歯周疾患の予防方法
	7	その他の疾患	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・口臭・口腔乾燥症
	8	地域歯科保健	歯科口腔保健法・健康日本 21 と健康増進法
	9	母子歯科保健	妊産婦歯科保健・1歳6か月児健診・3歳児健診
	10	学校歯科保健	学校歯科保健教育・学校歯科健康診断
	11	成人歯科保健	歯科保健事業
	12	産業歯科保健	歯科健康診断・職域歯科保健
	13	高齢者歯科保健	定期健康診断・口腔機能回復
	14	災害時歯科保健	災害時急性期歯科医療救護・口腔支援
	15	ライフステージの口腔保健	ライフステージごとの口腔保健管理

科目名		分野	教育内容	
衛生学・公衆衛生学		専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	2	30	講義
授業の目的	衛生・公衆衛生学における健康観を理解し、個人及び集団における総合的な健康対策を学習する。			
到達目標	健康と疾病との連続性を知り、科学的根拠に基づく予防対策を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	総論	保健生態学の定義健康の概念・予防医学の概念
	2	疫学	疫学の地祇及び概念疫学の方法
	3	人口	人口の動向人口動態・静態統計
	4	健康と環境	環境の概念空気・水と健康廃棄物処理
	5	感染症	感染症の成立感染症の予防
	6	食品と健康	食中毒の疫学・予防
	7	地域保健	地域保健の概念・組織・対策
	8	母子保健	母子保健の意義・概要
	9	学校保健	学校保健の意義・概要
	10	成人保健	成人保健の意義・概要
	11	老人保健	老人保健の意義・概要
	12	産業保健	産業保健の意義・概要
	13	精神保健	精神保健・医療・福祉
	14	災害時保健	災害時の保健医療対策
	15	国際保健	国際保健の意義・概要・仕組み

科目名		分野	教育内容	
衛生統計		専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	1	15	講義
授業の目的	歯科衛生士の必要な情報収集のための疫学について学ぼう 蝕に関する統計処理 口腔の汚染に関する統計処理を学ぶ。			
到達目標	標本抽出について概説できる。統計の基本的手法と統計量について説明できる。相関、推定、検定、スクリーニング試験について概説できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	図表の種類と特徴	度数分布表、ヒストグラム
	2	代表値と散布度	平均、中央値、再編値 散布度（平均偏差、分散、標準偏差）
	3	保健情報と保健統計	データと情報
	4	歯科統計とは	統計へのスタンス
	5	推定と信頼区間	点推定と区間推定 比率尺度の信頼区間
	6	検定	検定と帰無仮説検定の実際
	7	スクリーニングと統計	スクリーニング検査について説明する
	8	歯科疾患の指数	数量化と指数 WHO の診断基準について説明する

科目名		分野	教育内容	
衛生行政		専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	2	30	講義
授業の目的	歯科衛生士の業務を行うために必要な法律を学ぶ。			
到達目標	衛生行政及び関連法規について概要を説明することができる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保険・医療・福祉制度			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	衛生行政の目的と組織	衛生行政の目的と組織について説明する
	2・3	衛生行政・法体系	衛生行政の概要我が国の法律体系
	4	歯科衛生士と法律	歯科衛生士業務とその法的根拠について説明する
	5	衛生関係法	医療従事者の身分に関する法律
	6	歯科医師法	歯科医師法について説明する
	7	歯科技工法	歯科技工士法について説明する
	8・9	医療関係職種	歯科以外の医療関係者についての関連法規歯科以外の医療職種の法的な業務について説明する
	10	医療法	医療法の基本的な事項について説明する
	11	その他の関係法規薬事衛生法規	薬事関連する法規の定義
	12	保健衛生法規	地域保健に関連する法規
	13	予防衛生法規	食品衛生法や感染症法の目的や定義
	14	クリニカルパス	クリニカルパスの目的
	15	PDCA	PDCA について説明する

科目名		分野		教育内容	
歯科衛生士概論		専門		歯科衛生士概論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	
1	前期	1	30	講義	
授業の目的		「歯科衛生士とは何か」を法的・倫理的・社会的側面から体系的に理解し、専門職としての基礎的態度と自覚を養うこと。			
到達目標		1.歯科衛生士の三大業務の内容と役割を説明できる。 2.歯科衛生士法をはじめとする法的根拠を理解し、業務範囲及び責任について説明できる。 3.医療従事者としての倫理観（守秘義務・患者の権利尊重など）の重要性を理解している。 4.歯科衛生士の歴史的背景及び社会的役割を理解している。 5.専門職として主体的に学ぶ姿勢を身につけ、自己の課題を明確にできる。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論 医歯薬出版			
評価方法		筆記試験			
授業計画	回数	項目	授業内容		
	1	概説 歯科衛生学とは	歯科衛生学を学ぶにあたって 歯科衛生の定義		
	2	歯科衛生と健康	健康の考え方		
	3	歯科衛生と健康	生活習慣と健康 健康増進への関与		
	4	歯科衛生士法と関係する法規	歯科衛生士法の位置づけ関係法規		
	5	歯科衛生士の歴史と現況	歯科衛生の誕生と経緯歯科衛生士の教育		
	6	歯科衛生士と倫理	倫理の必要性 医の倫理と患者の権利患者の自己決定権 倫理綱領		
	7	歯科衛生実践のための理論	理論の考え方と活用法 健康鼓動に関する理論・モデルヒューマンニーズ理論		
	8	歯科衛生実践の展開	歯科衛生士として求められる能力 歯科衛生過程		
	9	医療安全確保における歯科衛生士の役割	医療安全に関する法律 安全管理の必要性 感染予防対策		
	10	保健・医療・福祉の制度と多職種連携	歯科衛生活動の特徴 歯科衛生活動に関連する制度・法律 地域包括システム 歯科衛生士の実践的な活動領域と役割 多職種連携に関わる職種		
	11	災害時における歯科衛生活動	わが国の災害と歯科 災害時の歯科保健医療活動 災害への備え		
	12	歯科衛生士の国際化	国際活動の意義 健康と歯科保健の世界的課題 国際保健医療協力の仕組み		

	13	組織活動	歯科衛生士の専門組織 日本歯科衛生士会日本歯科衛生学会 日本歯科衛生教育学会 国際歯科衛生士連盟 専門学会における歯科衛生士の学習機会
	14	歯科衛生士のキャリアキャリア形成	キャリア形成の必要性必要性と方法・生涯学習歯科衛生研究
	15	まとめ	全体の振り返り

科目名			分野	教育内容
歯科臨床概論			専門	歯科衛生士概論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	前期	1	30	講義
授業の目的	患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報歯科疾患の診断及び歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査及び全身の一般検査の意義と関連を理解する。			
到達目標	歯科診療の流れを理解し、その中で歯科衛生士が主体的に受け持つ役割を理解する。また、各論の授業を有機的に総合して理解できるようになる。			
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論第2版 医歯薬出版			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	Ⅰ編 歯科診療と歯科診療所	1章 歯科診療とは
	2		2章 歯科診療所
	3	Ⅰ編 歯科診療と歯科診療所	3章 歯科診療所における業務
	4	Ⅱ編 歯科診療の流れ	1章 ライフステージと歯科
	5	2章 歯科診療で行うことー主な診療の流れー	1.診査・検査・前処置
	6		2.小児歯科 3.歯科矯正
	7		
	8		4.口腔外科 5.歯科保存
	9		
	10		6.歯周治療 7.歯科補綴
	11		
	12		8.障害者歯科・高齢者歯科
	13		
	14		
	15・16	まとめ	今までに習得した内容を整理する

科目名			分野	教育内容
歯科保存・修復学			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	1	30	講義
授業の目的	歯を保存する重要性、役割を知り、潜在う蝕などの疾患に対して、保存修復で扱う処置法の内容を理解する。			
到達目標	硬組織疾患を理解し、その処置法を理解できるようになる。 保存修復分野での診療補助との関連について理解できるようになる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	保存修復学総論	保存修復学の概要 歯の硬組織疾患歯の硬組織の検査法
	2	硬組織疾患	種類と病態について説明する。
	3	う蝕	病態と分類について説明する。
	4・5	窩洞と修復の前準備	窩洞の分類と構成要素防湿法、歯間分離法、歯肉圧排法、隔壁法、除痛法に関して歯の切削とう蝕除去に必要な機材レーザーの用途と使用方法
	6	歯髄保護	歯髄保護仮封の目的と種類
	7・8	直接修復法-1 コンポジットレジン修復	コンポジットレジン修復の長所と短所、臨床的手順コンポジットレジンと歯質との接着コンポジットレジン修復の使用器材
	9	直接修復法-2 アマルガム修復、セメント修復	各種セメントの特性とその用法グラスアイオノマーセメント修復の長所と短所、臨床的手順アマルガム修復法の特徴
	10・11	間接修復法-1 鑄造修復	鑄造修復の長所と短所、手順特徴と適応症合着・接着セメントの成分と手順メタルインレー修復、合着と仕上げ・研磨メタルインレー修復の特徴適応症と禁忌症手順と器材材料の組織と特徴合着、接着材料の手順と注意事項
	12・13	間接修復法-2 セラミックインレー修復 コンポジットレジンインレー修復	セラミックインレー修復の特徴、手順、適応症と禁忌症コンポジットレジンインレー修復の特徴と適応症と禁忌症 手順と器材材料の使用法、制作方法について説明する。
	14・15	変色歯への対応	歯の漂白とポリッシング、ラミネートベニア修復変色歯への処置法歯の漂白の特徴と種類と適応症、禁忌症歯の漂白に後のメンテナンスラミネートベニア修復の手順と器材材料象牙質知覚過敏症の処置

科目名			分野	教育内容
歯内療法学			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	1	30	講義
授業の目的	歯の硬組織、歯髄及び根尖歯周組織などの疾患に対する予防と治療について学ぶ。			
到達目標	保存学としての歯内療法について理解する。歯内療法領域の主な疾患の概要と原因について理解する。歯周炎、根尖性歯周疾患の症状、治療法を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯内療法学総論	歯内療法の概要
	2	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因	象牙質知覚過敏症歯髄炎根尖性歯周炎
	3	歯髄疾患 根尖性歯周組織疾患の処置	分類と症状歯髄疾患の処置方針
	4	根尖性歯周炎	種類と特徴
	5	歯内療法特有の検査と診断	温度診歯髄電気診
	6	歯髄保存療法	種類と特徴
	7	歯髄除去療法	種類と特徴
	8	根管治療	術式について説明する
	9	根管充填	処置について説明する
	10	外科的歯内療法	分類と術式
	11	歯の外傷について	歯の外傷の処置について説明する
	12	根未完成歯	処置について説明する
	13	歯内療法における安全対策	偶発事故の種類と事故
	14	歯内療法における歯科衛生士の役割	検査、診断時の役割歯髄処置時の診療補助業務
	15	歯内療法に使用する薬剤	種類と取り扱い方 器具の滅菌・消毒と保管 薬剤の保管・管理

科目名			分野	教育内容
歯周病学			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	後期	1	30	講義
授業の目的	歯周組織の常態・病態を理解し、歯周病の症状・治療法について習得する。			
到達目標	歯周組織の構造について説明できる。歯周疾患の原因と分類について説明できる。歯周治療の流れを説明できる。歯周基本治療を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯周病の基礎知識	歯周病の有病状況、歯周治療の意義、目的
	2	正常な歯周組織	歯周組織の構成要素、防御機構、再生能力、
	3	構造と機能	加齢変化
	4	歯周疾患の分類	歯肉炎と歯周炎の違い歯肉病変、歯周病の分類
	5	歯周疾患の病因	細菌因子宿主、環境因子
	6	歯周疾患の原因	歯周病の原因 歯周医学インプラント歯周炎について説明する
	7	歯周治療の進め方	歯周病の原因、歯周治療基本的考え方進め方、内容について説明する
	8	歯周組織検査	一般検査による判定法歯周組織の診査法
	9	歯周外科治療	歯周外科手術の目的と種類
	10・11	歯周病、高齢者	歯周病と全身との関連高齢者の歯周病
	12	歯周基本治療	内容、目的、意義プラークコントロール、SRP の目的と意義
	13	歯周基本治療再評価	暫間固定、咬合調整、習癖の修正目的と意義歯周治療後の再評価
	14	歯周病と疫学と予防口臭	歯周病の疫学に用いる指数口臭について
	15	メンテナンスについて	歯周治療後の再評価メンテナンス SPT の目的、意義、方法

科目名			分野	教育内容
口腔外科学			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	1	30	講義
授業の目的	外科手術の際に必要な知識について理解を深め適切な介助技術を学ぶ。			
到達目標	口腔外科領域の疾患についてその特徴、診断法、治療法について説明できる。外科手術の際に必要な知識について理解を深め適切な介助技術を学ぶ。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	口腔外科の概要	口腔の形態の機能、口腔疾患の特徴
	2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	歯の異常、口唇口蓋裂、顎変形症
	3	顎・口腔領域の損傷及び機能障害	歯の外傷、顎骨骨折及び軟組織損傷の症状と治療法
	4	口腔粘膜の化膿性炎症疾患	歯槽部、顎骨及び口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状及び治療法
	5	顎関節疾患	顎関節の形態と機能、顎関節症、顎関節脱臼
	6	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	顎骨及び口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状及び治療法
	7	唾液性疾患	唾液腺疾患の症状と治療法
	8	口腔領域の神経疾患	顎、口腔領域の神経疾患の症状
	9	顎・口腔領域の腫瘍及び腫瘍類似疾患	顎、口腔領域の良性、悪性腫瘍腫瘍類以疾患の種類と症状
	10	血液疾患	白血病、血友病、紫斑病
	11	滅菌と消毒 手術器具	清潔域・不潔域消毒・滅菌手指消毒法
	12	口腔外科小手術	抜歯術・歯根端切除術・膿瘍切開術・歯槽骨切開術の術式について
	13・14	局所麻酔 精神鎮静法 全身麻酔、救急蘇生法	麻酔の目的、各種局所麻酔法と施術時の注意点精神鎮静法と全身麻酔の適応症と種類歯科治療時の全身的偶発症とその対応
	15	周術期口腔ケア	手術前後の口腔衛生管理による手術時のトラブル防止 予防法についてがんの放射線治療、化学療法による口腔粘膜炎の予防

科目名			分野	教育内容
小児歯科学			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	1	30	講義
授業の目的	身体的・精神的・社会的発達途上にある小児の特徴を理解し、チーム診療の役割について知識と技術を学ぶ。			
到達目標	小児の身体や小児期の口腔疾患と治療の概要について基本知識の習得及び小児歯科医療の中で担役割について理解し説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	小児歯科学概論	小児歯科学について小児歯科診療と歯科衛生士の役割
	2	心身の発達	発育の概念と分類発育の評価
	3・4	小児の生理的特徴	生理的年齢器官の発育精神的発達小児の生理的特徴
	5	顔面頭蓋の発達	顎顔面頭蓋の発育乳歯の特徴乳歯のう蝕
	6	歯の発達とその異常	幼若永久歯のう蝕・歯の形成歯の発育時期と形成障害
	7	歯列・咬合の発達と異常	歯列及び咬合の発育歯列・咬合の発育異常
	8	小児の歯科疾患	小児にみられる歯科疾患先天異常
	9	子供への対応法	小児歯科と成人歯科との対応法お違いについて
	10	小児の外傷の処置	小児の歯の外傷の種類と処置法
	11	咬合誘導	概念ならびに保隙装置の種類適応症
	12	定期診査	意義や検査項目
	13	口腔機能の発達と育成口腔機	能の発達の評価項目や訓練
	14	障がいのある子どもの発達支援	障がい児の特徴と問題点
	15	心身障がい児の歯科診療補助	小児疾患と歯科診療

科目名		分野		教育内容
歯科矯正学		専門		臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	1	30	講義
授業の目的	歯科矯正治療に対する知識と補助技術・歯科衛生士としての役割を学ぶ。			
到達目標	矯正歯科治療の概要について説明できる。歯科矯正治療に関係する成長・発育、正常咬合、診断に必要な知識、メカニズムについて説明できる。矯正歯科診療で用いる矯正装置、器具・機器を説明できると共に、歯科衛生士の役割を理解する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業
	1	矯正歯科治療の概要	矯正歯科治療について
	2	成長・発育	頭蓋・顎顔面の成長発育歯・歯列の成長発育
	3	正常咬合と不正咬合	正常咬合について説明する不正咬合の分類
	4	矯正歯科診断	診断に必要な資料
	5	矯正歯科治療と力	症例分析強制力と顎整形力
	6・7	矯正装置	可撤式矯正装置、固定式矯正装置機能的矯正装置、顎外固定装置、顎内固定装置保定装置、その他の装置
	8	矯正器材	矯正に用いる器材プライヤーの種類
	9	上下顎の前後的關係の不調和	過蓋咬合・開口過蓋咬合症例の治療の実際 開咬症例の治療の実際
	10	成人矯正	補助的・包括的歯科矯正治療 成人歯科矯正治療 顎変形症
	11	口腔顎顔面の形成異常と変形	埋伏歯先天欠如歯過剰歯
	12	矯正歯科治療時のトラブル	う蝕、歯肉炎、歯周疾患歯根吸収 顎関節症 アレルギー トラブルへの対処法
	13	矯正歯科診療における歯科衛生士の役割	検査の補助質問票、検査 インフォームドコンセント 矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱い 装置装着時の補助と指導
	14	口腔保健管理	口腔保健管理筋機能訓練法
	15	矯正治療	子供・大人の矯正治療症例別治療の実際

科目名			分野	教育内容
歯科補綴学			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	1	30	講義
授業の目的	歯科衛生士業務を行うために必要な歯質欠損に対する、歯冠修復と歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。			
到達目標	補綴歯科治療に関する基礎知識を習得し、説明できる。治療におけるクラウン・ブリッジ治療の実際を習得し、説明できる。補綴歯科治療における。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科補綴治療の基礎知識	補綴装置の種類と適応症
	2	歯の欠損に伴う障害と補綴治療	歯の欠損に伴う障害
	3	クラウン・ブリッジ治療の実際	支台装置とポンティックの選択特徴及び制作法
	4	有床義歯治療の実際	有床義歯の支持装置、把持装置、維持装置について
	5	インプラント診療補助概論	インプラント治療における歯科衛生士の役割インプラント周囲組織について
	6	全身状態の評価	全身疾患インプラント治療に対するリスクリスク管理
	7・8	インプラント治療	検査の目的と方法治療の流れと治療計画インフォームドコンセントチームアプローチ チームの連携トラブルと合併症
	9	インプラント体埋入	術式の流れ手術時のアシスタントワーク
	10	インプラント治療の医療安全	器具の滅菌管理、感染予防について手術時の消毒滅菌
	11	インプラント補綴法	印象採得補綴装置のメンテナンス
	12	歯科補綴治療に用いられる器材	器材の名称、使用方法、管理について
	13	補綴歯科治療における歯科技工	クラウン・ブリッジ及び有床義歯の制作方法
	14	補綴歯科治療時の衛生士の役割	検査・診断時の業務補綴治療時の業務
	15	患者指導	補綴処置後におけるメンテナンスの重要性

科目名			分野	教育内容
高齢者歯科・障がい者歯科			専門	臨床歯科医学
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	1	30	講義
授業の目的	障がいの概念及び障がい者・高齢者の身体的・心理的状态を理解するとともに、歯科衛生士としての基本的な心構えや在り方について学ぶ。さらに、質の高い歯科医療や口腔保健の提供が、障がい者・高齢者の QOL の向上や自己実現につながることを学び、具体的な対応方法や歯科診療の補助、健康支援方法について概説できる。			
到達目標	障がいの分類を説明でき、障がいに応じた対応方法を説明できる。 高齢者医学の目的を説明できる。高齢者の心理、社会学、行動科学、栄養学を説明できる。高齢者の基礎疾患と歯科治療時の注意点を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	障がいの分類、基本理念	障がいの分類障がい児・者に対する口腔保健の現状
	2	障がいと疾患の特徴	精神発達・心理的発達と行動障がいについて
	3	障がいと疾患の特徴	神経・運動障がい及びその他の障がいについて説明す
	4	障がいと疾患別歯科診療の補助	障がいに対する対応方法・行動調整法（行動変容法）
	5	発達評価について	健常児・者と障がい児・者の精神的発達や身体的発達
	6～8	障がい児・者における口腔健康管理	の評価方法障がい児・者における口腔健康管理方法（対応方法や支援方法）
	9	高齢社会と健康	高齢者とは高齢者をとりまく社会的問題と環境
	10	高齢者歯科の現状	全身管理の基礎知識全身症状への対応
	11	高齢者と薬剤	高齢者の口腔領域の特性高齢者に多い口腔領域の疾患
	12	高齢者の口腔	高齢者を支える保健、医療、福祉の基盤高齢者の健康と生活
	13	高齢者に対する口腔ケア	口腔のケアにおける高齢者の特徴有病高齢者への口腔ケア
	14	要介護高齢者への口腔ケア	要介護高齢者への対応要介護者にみられる機能障がいとその対応
	15	歯科衛生士の役割と医療安全	高齢者の歯科診療・歯科衛生士による口腔保健管理診療室における高齢者との接し方、介護技術

科目名			分野	教育内容
歯科予防処置論Ⅰ			専門	歯科予防処置論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	3	90	講義／実習
授業の目的	健康寿命の延伸に向けた、歯・口腔の健康維持・向上のために必要な知識・技術を習得する。歯科予防処置では歯科疾患の特徴について理解し、歯科疾患予防のための予防処置の概念やその方法を習得する。			
到達目標	歯科予防処置に携わるための知識や技術を理解する。 手用スケーラーを机上で適切に操作できるようになる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生学シリーズ 歯周病学			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科予防処置論の概要	1 予防の概念 2 健康推進施策 3 健康教育
	2	歯科予防処置論の概要	1 歯科予防処置法の定義 2 歯科予防処置法の考え方 3 歯科予防処置の法的な位置付け 1) 歯科予防処置の内容 ①付着物、沈着物の除去 ②薬物の塗布 4 歯科衛生実践の進め方
	3	口腔の基礎知識	1 正常な口腔 1) 口腔の構造 ①歯 ②歯肉 ③舌 ④小帯 ⑤口蓋 1 歯周組織 1) 歯冠乳頭 2) 遊離歯肉 3) 付着歯肉 2 歯根膜 3 歯槽骨
	4	口腔の基礎知識	2 歯冠と歯根の形態 永久歯 ①切歯 ②犬歯 ③小白歯・大白歯 乳歯 歯式（歯の用語）
	5～6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報分析	1 口腔内の情報収集 口腔内の観察 検査 ①歯・歯式 ②歯肉 ③舌 ④口腔粘膜 ⑤唾液 ⑥歯面の付着物、沈着物 ⑦歯周ポケット

		⑧歯の動揺度 ⑨口臭
7・8	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報分析	口腔内の情報収集 3) 歯周組織検査 ①プロービング ②出血 ③動揺度
9～12	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報分析	分析のためのデータ歯周組織検査相互実習 歯 ①歯式 歯周組織 ①プロービング ②O'Leary の PCR ③歯肉出血 (BOP) ④動揺度
13～23	マネキン実習	手用スケーラーマネキン実習 ①ブロックごとのマネキン実習 マネキン実習チェック机上訓練 1) キュレットスケーラーの訓練 ①部位別操作法 ②模型での基礎訓練
24～27	歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリングマネキン実習 マネキンの取り扱い 手用スケーラーマネキン実習 ①ブロックごとのマネキン実習 マネキン実習チェック
28・29	歯科衛生介入としての歯科予防処置	ポジショニングと口腔内におけるインスツルメントの操作 術者のポジション 口腔内での材料の取り扱い ①ロール綿 ②綿球の作製と塗布 ③ポジショニング
30	歯科衛生介入としての歯科予防処置	1) ミラーテクニック デンタルミラーの種類 使用方法 2) 各種インスツルメントの取り扱い
31～34	歯科衛生介入としての歯科予防処置	5 エアースケーラー及び超音波スケーラー 1) エアースケーラー (講義) ①原理と構造 ②特徴 ③操作方法
35・36	歯科衛生介入としての歯科予防処置	2) 超音波スケーラー (講義) ①超音波とは

		②原理 ③構成 ④特徴 ⑤注意事項 ⑥インサートチップの動かし方 ⑦術者保持のバキューム操作
37～40	マネキン実習	エアースケーリング及び超音波スケーリング 1) エアースケーラー及び超音波スケーラーの設置 2) エアースケーラー及び超音波スケーリング実習 エアースケーリング、超音波スケーリング 下顎 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 上顎 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 上下前歯部 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 左側臼歯部 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 右側臼歯部 ①エアー、超音波スケーリング
41	相互実習	②歯面研磨歯面清掃器 歯面清掃器相互実習歯面研磨 歯面研磨相互実習
42	歯科衛生介入としての歯科予防処置	6 歯面研磨（ポリッシング）講義・マネキン実習 ①歯面研磨（ポリッシング）講義 ②マネキン実習に向けてのマネキンの取り扱い
43	歯科衛生介入としての歯科予防処置	7 歯面研磨（ポリッシング）マネキン実習 1) 歯面研磨マネキン実習 ①目的 ②種類 ③歯面研磨剤 ④使用器材と操作方法 ⑤注意事項
44	歯科衛生介入としての歯科予防処置	8 歯面清掃（PMTC 歯面清掃器） 1) 歯面清掃 ①PTC と PMTC ②歯面清掃器
45	歯科衛生介入としての歯科予防処置	2) 歯面清掃マネキン実習 ①歯面清掃器取り扱い ②歯面清掃器の清掃効果実験 ③ポジショニング

科目名			分野	教育内容
歯周予防処置論Ⅱ			専門	歯科予防処置論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	2	60	講義／実習
授業の目的	健康寿命の延伸に向けた、歯・口腔の健康維持・向上のために必要な知識・技術を習得する。歯科用処置では歯科疾患の特徴について理解し、歯科疾患予防のための予防処置の概念やその方法を習得する。			
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・技術・態度を習得し、実践することができる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論歯科衛生学シリーズ 歯周病学			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要 歯科衛生過程を進めるうえで重要なこと 1) クリティカルシンキングの基本姿勢 2) 臨床推論ヘルスプロモーション活動動機付け
	2	歯科衛生アセスメント	情報収集・情報分類 コミュニケーション 問診
	3～8	歯科衛生士アセスメント	歯科衛生診断 1) 情報の統合 2) 歯科衛生診断のタイプ 歯科衛生診断文の表し方 優先順位
	9～10	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生計画目標の種類と目標設定 歯科衛生介入の記録と事例 SOAP について説明する
	11	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	超音波スケーリング 相互実習 超音波スケーラーの取り扱い 相互実習 歯科衛生アセスメントのための情報収集と分析
	12～15	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報整理	口腔内の観察 エクスプローラーの使用目的と基本操作 歯周ポケット検査 根分岐部病変の診査 その他の手用スケーラー
	16・17	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報整理	口腔内診査 歯・歯列の観察 歯面の付着物、沈着物の観察 歯の動揺度プロービング、BOP
	18～21	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報整理	口臭の原因と分類 口臭検査の目的

			口臭検査法の判定 口臭測定
	22	歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーラーの種類と使用目的 キュレットスケーリングの復習 机上訓練マネキン実習
	23・24	シャープニング	①目的・必要性 ②研磨用器具・機械の種類 ③手用研磨器具 ④ストーンの種類・特徴 ⑤研磨の原則と手順
	24～30	歯周病予防と観察のポイントと対策	対象者の情報収集 1) 問診 2) 口腔内写真撮影 3) 歯周組織検査 情報収集を基に分析 う蝕のリスク 歯周病のリスク 不足の情報収集と必要な指導計画を基に歯科衛生介入及び指導

科目名			分野	教育内容
歯科予防処置論Ⅲ			専門	歯科予防処置論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	2	60	講義・実習
授業の目的	健康寿命の延伸に向けた、歯・口腔の健康維持・向上のために必要な知識・技術を習得する。 歯科用処置では歯科疾患の特徴について理解し、歯科疾患予防のための予防処置の概念やその方法を習得する。			
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・態度を習得し実践することができる。			
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯周病学 保健生態学 （医歯薬出版）			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1～6	う蝕予防処置法	う蝕活動性試験 う蝕活動性の種類と応用 カリエスリスクテストの実際 小窩裂溝充填の臨床応用 フッ化物の臨床応用 偶発事故の防止と対策
	7・8	臨床における歯科衛生活動	患者の基礎データ 歯周疾患 患者の基礎データ 目標の設定と介入の計画 3) 再評価方法 4) メンテナンスの決定
	9・10	歯科予防処置の実際	スケーラーのシャープニング シャープニングの目的と必要性 砥石の種類と管理 シャープニングの臨床応用
	11・12	歯科予防処置の実際	分析のためのデータ 1) エックス線写真の読影
	13・14	歯科予防処置の実際	PTC PTC 相互実習 術者磨き
	15・16	口腔内の情報収集相互実習	歯式 歯面の付着物、沈着物（エキスプローリング） 歯周組織検査 歯の動揺
	17～22	予防的歯石除去法総復習	ループを応用しての SRP プチピエゾの使用含む歯周組織検査 口腔内写真撮影法アセスメント 歯周治療計画の立案と説明 患者教育 口腔清掃指導 スケーリング・ルートプレーニング PMTTC 事後評価と初診時の比較
	23～26	歯周治療の知識	1.インプラント周囲疾患

			1) インプラント周囲炎周囲組織 2.インプラントと周囲疾患 インプラント周囲炎 インプラント周囲組織の検査
	27～30	歯周治療の知識	ペリオドンタルメディシン 糖尿病 歯周病と誤嚥性肺炎 歯周病と血管障害 歯周病と早産・低体重児出産 歯周病と骨粗しょう症 歯周病と肥満 歯周病と関節リウマチ

科目名			分野	教育内容
う蝕予防処置論			専門	歯科予防処置論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	1	30	講義／実習
授業の目的	う蝕を予防するための手段・処置を実験・実習を通して知識、技能ともに理解していくことを目的とする。			
到達目標	う蝕処置法（フッ化物歯面塗布法、小窩裂溝充填法）や関連項目（う蝕活動性試験、フッ化ジアミン銀塗布法、PMTC）の目的、方法、所要条件、実施上の注意事項等を説明できる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	う蝕予防処置総説	う蝕予防処置法についてう蝕予防処置法における歯科衛生士の役割う蝕予防処置の範囲と種類
	2	う蝕の知識について	う蝕発生メカニズムについて説明ができるプラークの成り立ちとう蝕について歯及びエナメル質表層の知識を知る唾液作用について
	3	フッ化物の基礎知識	フッ化物応用の知識について生体におけるフッ化物の応用の吸収・沈着・排泄についてフッ化物の中毒についてフッ化物の中毒量計算
	4	う蝕活動性試験	う蝕活動性試験についてう蝕活動性試験の種類・特徴各検査の目的・方法・評価
	5	う蝕活動性試験	う蝕活動性試験実習カリエスリスクとそれに対する保健指導
	6	フッ化物によるう蝕予防処置	フッ化物応用によるう蝕予防方法ライフステージに応じたフッ化物応用について
	7	フッ化物の応用	フッ化物中毒について 計算問題
	8	フッ化物の応用	フッ化物配合歯磨剤についてフッ化物洗口について
	9~10	フッ化物歯面塗布法	フッ化物歯面塗布法（トレイ法・歯ブラシゲル）について応用後の保健指導
	11	小窩裂溝充填法	材料の種類・取り扱いと術式処置後の保健指導について
	12	小窩裂溝充填法	小窩裂溝充填法実習 咬合面形態についてについて 充填材による小窩裂溝の封鎖状態を評価
	13	フッ化ジアミン銀の応用	マネキン上でフッ化ジアミン銀塗布法の実習塗布後の天然歯の状態を観察評価溶液が衣服についた場合の対処法
	14	フッ化物歯面塗布	フッ化物歯面塗布法相互実習う蝕のリスクとメンテナンスの必要性
	15	まとめ	う蝕予防処置法の有効性と活用について復習問題

科目名			分野	教育内容
歯科保健指導論 I			専門	歯科保健指導論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	3	90	講義／実習
授業の目的	口腔保健の基礎を理解するために口腔内に関心を持ち歯科衛生士として必要な基礎項目を習得しながら、歯科保健指導に求められる知識を理解し、技術を体得する。			
到達目標	歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。口腔清掃状態の指標を評価する。対象者に応じたコミュニケーションができる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	総論	歯科保健指導概要 ①歯科保健指導の定義 ②歯科保健指導論の考え方 ③歯科保健指導の法的な位置づけ
	2	総論	健康の概念 ①健康とは ②日本の健康増進対策予防の概念 ①第一次予防 ②第二次予防 ③第三次予防
	3	歯科保健指導の基礎知識	口腔機能 ①口腔の機能 ②摂食・嚥下の仕組み
	4	口腔内の付着物・沈着物	①デンタルプラークの特徴 ②口腔内の付着物・沈着物の特徴 ③付着物・沈着物の除去方法 ④バイオフィルムの特性
	5	デンタルプラークの分類と形成過程	①デンタルプラークの構成成分 ②デンタルプラークの形成過程 ③歯石の構成成分④歯石の形成過程
	6・7	歯科保健指導実施のための基礎知識	行動変容の要素とそのステップ ①歯科専門知識の習得②行動変容に関する理論 ③行動変容を促す行動理論の実践
	8・9		食生活指導の基礎 ①食生活及び食習慣の把握 ②食品と齲蝕発生 ③咀嚼と食品
	10	口腔内観察 ①O'leary の「プラークコントロールレコード」	①O'leary の「プラークコントロールレコード」の観察部位 ②O'leary の「プラークコントロールレコード」正しく算出
	11	口腔観察 ②OHI・OHI-S	①OHI・OHS-S の観察部位 ②OHI-OHI-S 集計表の見方と計算方法
	12	歯科衛生士介入としての歯科保健指導	①歯ブラシ、歯磨剤（基本成分・薬用成分・フッ化物配合歯磨剤）

	13・14	歯科衛生介入のための歯科保健指導	①ブラッシング方法（毛先磨き） ②ブラッシング方法（わき腹磨き）
	15・16		①ブラッシング方法（毛先磨き） ②ブラッシング方法（わき腹磨き） マネキン実習
	17・18		①補助的清掃用具・口腔ケア用品・洗口剤・保湿剤
	19・20	口腔管理に関わる指導	①歯垢染色剤、PCR（講義・実習）
	21・22	歯科衛生士介入のための歯科保健指導	企業実習 日本歯磨工業会(歯磨剤)
	23・24		②歯垢染色剤、PCR（講義・実習）
	25・26	対象者別の歯科保健指導妊産婦期	①妊産婦期の一般的特徴 ②妊産婦期の口腔の特徴 ③妊産婦期に必要なケア
	27・28	対象者別の歯科保健指導新生児・乳児期	①乳幼児期の一般的な特徴 ②乳幼児期の口腔の特徴 ③乳幼児期の口腔の発達について ④乳幼児に必要なケア
	29・30	対象別の歯科保健指導幼児期	①幼児期の一般的特徴 ②幼児期の口腔の特徴 ③幼児期に必要な歯科保健行動
	31・32	対象者別の歯科保健指導学童期・青年期	①学童期と青年期の一般的な特徴 ②学童期と青年期の歯科保健行動と口腔衛生指導
	33・34	対象者別の歯科保健指導成人期	①成人期の一般的な特徴 ②成人期の歯科保健行動と口腔衛生指導
	34・35	歯科衛生士介入のための歯科保健指導	歯垢染色剤、PCR、TBI（相互実習）ウォーターピック、電動歯ブラシ、音波歯ブラシ
	36・37	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	①患者からの情報収集 ②医療面接 ③全身の健康状態の把握
	38・39		④認知機能の把握 ⑤生活環境と生活背景の把握
	40・41		⑥口腔の器質的問題の把握 ⑦口腔機能的問題の把握
	42・43	歯科衛生介入としての歯科保健指導	③生活習慣の指導（非感染性疾患・喫煙者に対する指導）
	44・45	ブラッシング実技試験・まとめ	復習問題

科目名			分野	教育内容
歯科保健指導論Ⅱ			専門	歯科保健指導論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	1	30	講義／実習
授業の目的	年代別疾患別の特徴を理解し動の変容を促す指導法を習得し、コミュニケーション能力の向上を測る。			
到達目標	歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。口腔清掃状態の指標を評価する。対象者に応じたコミュニケーションができる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1保健生態学			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1・2	歯科衛生介入としての歯科保健指導	①生活習慣の指導（非感染性疾患・喫煙者に対する指導）
			②ストレスマネジメント
	3・4	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要（歯科衛生過程とは6つの要素など）歯科衛生過程の構成要素（歯科衛生アセスメント・診断・計画・介入・評価・記録）
	5・6	歯科衛生過程の進め方	グループワーク（症例検討）
	7・8	歯科衛生過程の進め方	グループワーク（症例検討）（症例発表）
	9・10	配慮を要する者への歯科衛生介入	要介護高齢者（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導・食生活の特徴と栄養・食生活指導）障害者（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導・食生活の特徴と栄養・食生活指導）
	11・12	地域保健活動における健康教育	健康教育の概念・健康教育の進め方・健康教育の方法健康教育の評価
	13~15	地域歯科保健活動のフィールド健康教育媒体づくり（保育園）	①保育所（園）・幼稚園（健康教育・学習指導案） ②媒体作成

科目名			分野	教育内容
歯科保健指導論Ⅲ			専門	歯科保健指導論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	2	60	講義／実習
授業の目的	生涯を通じた口腔保健管理のために現場での実際の活動を通して、歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。			
到達目標	歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。口腔清掃状態の指標を評価する。対象者に応じたコミュニケーションができる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 ・ 歯科保健指導論 医歯薬出版			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	I - 4	集団指導法	ブラッシングテスト 保育所・幼稚園（健康教育指導案）
	5 - 8	集団指導法	対象者の把握指導案の作成原稿の作成 教育媒体の作成
	9-12	集団指導法	対象者の把握指導案の作成原稿の作成 教育媒体の作成
	13-14	集団指導法	対象者の把握指導案の作成原稿の作成 教育媒体の作成
	15-16	集団指導法	対象者の把握指導案の作成原稿の作成 教育媒体の作成
	17-22	集団指導法	対象者の把握指導案の作成原稿の作成 紙芝居テスト 教育媒体の作成
	23・24	臨地実習振り返り	グループワーク・PP 作成
	25-30	国家試験対策	

科目名			分野	教育内容
栄養指導学			専門	歯科保健指導論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	1	30	講義
授業の目的	栄養学の基礎知識と栄養指導及び食生活指導の実技について学ぶ。			
到達目標	ライフステージ別に必要な栄養を選択できる知識を習得する。栄養アセスメントを通じて幼少期から老年期の食事指導を行うことができる。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	栄養の基礎知識	健康維持のために栄養の知識を学ぶ物摂取における栄養
	2	食事摂取基準	基礎代謝と食事摂取基準
	3	五大栄養素の働き	五大栄養素概説
	4	栄養素としての糖質	糖質の種類栄養素としての糖質の意義について説明する
	5	栄養素としてのタンパク質	タンパク質の働き
	6	栄養素の働き	ビタミンの種類と分類及び機能について説明する
	7	栄養素の働き	ミネラルの種類と分類及び機能と水の特性カルシウムの調節機構について説明する
	8	国民の健康と栄養	食育について
	9	食べ物と健康	食品の成分と分類
	10	栄養素の消化と吸収	消化酵素について説明する 消化後の栄養素の吸収機構について説明する
	11	食事摂取基準	個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価方法
	12	食事バランスガイド	食事バランスガイドについて説明する 望ましい食事の組み合わせ
	13	ライフステージ別食生活	成長期、成人期の食生活の特徴 高齢期の食生活の特徴
	14	食品の成分と分類	食品の3つの機能にについて説明する
	15	食べ物と健康	摂食嚥下機能に応じた食事形態について説明する

科目名			分野	教育内容
歯科診療補助論Ⅰ			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	2	60	講義/実習
授業の目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。全身的疾病を理解した上で対象年齢に応じた患者への接し方を学ぶ。			
到達目標	歯科診療補助が安全にかつ、円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 歯科衛生学シリーズ 歯科材料			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科診療補助概論	歯科診療補助の意義 補助と介助の違い 歯科衛生士の行う歯科診療の補助
	2	器材拭きガーゼ作製	身だしなみ実習に必要な器材拭きガーゼの作製
	3	医療安全と感染予防	滅菌と消毒 1) 医療安全のスタンダードプレコーション 滅菌と消毒の定義と種類 医療廃棄物の分類 概念と対策 2) 歯科医療における感染症の概念と対策
	4	歯科診療の流れ	歯科医院の一日の流れ 歯科診療室の器材 歯科材料の種類
	5	歯科医療における基礎知識	手指消毒方法 グローブの装着・脱着の手順 滅菌物の取扱いと管理 滅菌パッキシーラーの取扱い
	6	共同作業	共同動作の概念 歯科用ユニットの構造、機能 術者・補助者・患者のポジショニング 診療時のライティング
	7	共同動作の実際	患者誘導 歯科用ユニットの操作
	8～10	共同作業の実際	フォーハンデッドデンティストリー器具の受け渡し 実習器具の受け渡し ①ペングリップ ②パームグリップ ③その他
	11	共同作業の実際	バキュームテクニック スリーウェイシリンジテクニック
	12	歯科材料の基礎知識	歯科材料と歯科衛生士所要性質と基本的性質

13	衛生材料	ロールワッテ・洗浄用綿球作製 塗布用綿球・掃除用綿球ブローチ綿栓
14～18	印象材の取扱い	印象材の基礎知識 1) 種類と特徴 2) 印象採得時の補助印象材の取扱いアルジネート 印象材による概形印象採得 水温変化の実験 混水比の実験
19	印象材の取扱い	寒天印象材の基礎知識 スパチュラ、ラバーボールの把持 スパチュラの動かし方
20	印象材の取扱い	計量練和気泡抜き
21	印象材の取扱い	回転トレー、上顎、下顎トレーへの盛り付け
22	寒天印象材	寒天印象材の取扱い寒天・アルジネート連合印象採得
23	合成ゴム質印象材	ポリサルファイドゴム印象材などシリンジの取り扱い
24	その他の印象材	モデリングコンパウンドなど
25	歯科用石膏	模型用材料の基礎知識歯科用石膏の種類と性質模型の用途
26	模型材石膏	石膏模型材実習
27	ラバーダム防湿	ラバーダム防湿の基礎知識 1) 目的と利点・欠点 2) 器具の名称と用途ラバーダム防湿の取扱い 1) 手順
28	ラバーダム防湿	実習 2 歯露出 1 歯露出
29	歯肉圧排	基礎知識 1) 歯肉圧排用薬剤の種類 2) 歯肉圧排の手順 3) 歯肉圧排用材料実習 4) 機械的歯肉圧排法
30	隔壁	基礎知識 1) 窩洞の名称 2) 隔壁法 3) 歯冠分離法実習 タッフルマイヤー型リテーナーの取扱い リテーナーへの装着

科目名			分野	教育内容
歯科診療補助論Ⅱ			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	3	90	講義／実習
授業の目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。全身的疾病を理解した上で対象年齢に応じた患者への接し方を学ぶ。			
到達目標	歯科診療補助が安全にかつ、円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 歯科衛生学シリーズ 歯科材料			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	ワックス	基礎知識、種類、用途
	2	合着材・接着材	基礎知識種類と用途所要性質余剰セメントの除去
	3～5	合着材	リン酸亜鉛セメント 1) 成分と特徴 2) 取扱い実習ポリカルボキシレートセメントガラスアイオノマーセメント 成分と特徴 取扱い
	6～8	接着剤	接着性レジンセメント 1) 特徴と種類操作手順応用例
	9～11	仮封材・仮着	仮封材・仮着材・暫間修復材用途、種類暫間修復材の取扱いプロビジョナルレストレーション仮着用セメント取扱い方法セメント泥の盛り付け方実習既製冠へのセメント泥の盛り付け
	12～14	仮封材	仮封と暫間修復の違い目的、所要性質仮封材の種類と仮封法各種材料の取扱い方法
	15・16	実習	テンポラリーストッピング仮封用軟質レジン水硬性仮封材
	17～20	仮封材	酸化亜鉛ユージノールセメント 成分、用途 特徴（利点・欠点） 取扱い方法
	21～24	実習	酸化亜鉛ユージノールセメントリン酸亜鉛セメントガラスアイオノマーセメント
	25	根管充填用セメント	目的・種類・取り扱い方法
	26	裏層材	ライニングとベースの違い種類・取り扱い方法
	27	歯科補綴に関わる材料	人工歯・義歯床用レジン・ブリッジ・インプラントに使用する材料
	28	義歯床用裏層材	リラインとリベース裏層材粘膜調整剤適合試験材

	29	歯周パック材	目的・種類・取り扱い方法貼付方法患者指導
	30	切削用機器	切削・研削・研磨の定義電気エンジン、マイクロモーター、エアータービンの違いと用途切削・研削・研磨用器具
	31～33	保存修復治療時の補助	トレーセッティング（直接修復） 1）コンポジットレジン修復トレーセッティング（間接修復） インレー形成、印象採得 インレー合着
	34	歯内療法時の補助	歯髄処置根管処置
	35	歯周療法時の補助	フラップ手術
	36	補綴治療の補助	遊離端部分クラウン・ブリッジインプラント
	37～40	歯科口腔外科治療時の補助	普通抜歯手術埋伏抜歯手術歯槽骨整形手術歯根端切除術消炎手術持針器・縫合針の取扱い
	41	小児歯科治療時の診療補助	小児の診療と診療補助の特徴
	42	矯正歯科治療時の補助	矯正治療と診療補助の特徴
	43	歯科訪問診療室の補助	歯科訪問診療の流れ
	44・45	周術期における歯科診療の補助	病態の把握治療時の対応

科目名			分野	教育内容
歯科診療補助論Ⅲ			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	2	60	講義／実習
授業の目的	歯科診療補助及び歯科衛生士の役割を再確認し、知識と技術を統合する。歯科診療の高度化に伴い歯科衛生士として歯科診療補助業務を効果的に行うために、さらに専門的な知識と技術を習得する			
到達目標	歯科診療補助が安全にかつ、円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。			
教科書	最新歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 最新歯科衛生学シリーズ 歯科機器 最新歯科衛生学シリーズ 歯科材料			
評価方法	学修成果評価、筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1・2	高齢者歯科学実習	食事介助 バイタルサインの評価
	3・4	高齢者歯科学習	移乗 講義／実習
	5・6	高齢者歯科学習	介助磨き 講義／実習
	7・8	高齢化歯科学習	バイタルサインの評価 講義／実習
	9	バキュームテクニック	相互実習
	10・11	概形印象採得	知識の整理 実習の流れ相互実習
	12・13	石膏模型の制作実習	石膏模型台付け・基底部の形成、石膏模型のトリミング石膏模型の修復
	14・15	コンポジットレジン修復	知識の整理、相互実習
	16・17	仮封材	知識の整理、相互実習
	18	スポーツ歯科の目的	歴史、スポーツ歯科の現状
	19	スポーツと顎口腔領域の外傷	スポーツ外傷の予防法
	20・21	歯科におけるレーザー治療	種類と特徴歯科におけるレーザー治療の応用
	22	主な全身疾患とその対応	基礎知識と歯科診療上の注意点
	23・24	審美歯科治療	美の概説審美歯科の概説ホワイトニング
	25・26	インプラント治療	インプラントのメンテナンス（基礎知識）インプラントのメンテナンス（インプラント周囲組織）
	27・28	周術期における歯科診療の補助歯科訪問診療における対応	周術期における歯科衛生士の対応歯科訪問の診療補助の概要
	29・30		歯科衛生士の役割 口腔健康管理 歯科訪問診療の流れ

科目名			分野	教育内容
歯科材料学			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	後期	1	30	講義
授業の目的	歯科生体材料及び生体材料を含む歯科材料の概要、性質、変化、成形理論などを学び、歯科機器の概要、取り扱いなどを学ぶ。			
到達目標	歯科生体材料、歯科材料及び歯科機器を臨床現場で応用できる知識を習得する。			
教科書	最新歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版）最新歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）			
評価方法	単位試験、出席状況、受講態度、小テストなどによる総合評価			

授業計画	回数	項目	授業項目
	1	総論：歯科生体材料， 生体材料，歯科材料	歯科生体材料，生体材料，歯科材料の概要 金属，高分子，セラミックス
	2	歯科生体材料， 歯科材料	歯科生体材料，歯科材料の基本的性質 金属，高分子，セラミックス
	3	各論：成形修復材料 1.	成形修復材料の種類，組成 コンポジットレジン，グラスアイオノマーセメント
	4	成形修復材料 2.	成形修復材料の性質
	5	成形修復材料 3.	成形修復材料の取り扱い
	6	印象材 1.	印象材の種類，組成 弾性印象材，非弾性印象材
	7	印象材 2.	印象材の性質，取り扱い
	8	模型材 1.	模型材の種類，組成 普通石膏，硬質石膏，超硬質石膏
	9	模型材 2.	模型材の性質，取り扱い
	10	合着・接着材 1.	合着・接着材の種類，組成 歯科用セメント
	11	合着・接着材 2.	合着・接着材の性質，取り扱い
	12	その他の材料， 歯科機器 1.	その他の材料，歯科機器の種類 インプラント，仮封材，ワックス，歯科用ユニットなど
	13	その他の材料， 歯科機器 2.	その他の材料，歯科機器の基本的性質
	14	研 磨	研磨の方法，原理 切削，研削，研磨
	15	歯科材料学のまとめ	歯科材料学全般についてのまとめ

科目名			分野	教育内容
臨床検査学			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	1	30	講義
授業の目的	医療従事者として必要とされる基本的な臨床検査について知識、技能、態度を習得する。			
到達目標	医療人として経験すべき診察法・検査・手技・経験すべき症状・病態・疾患ならびに特定の医療現場の経験を身に着ける。			
教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業項目
	1	臨床検査とは	臨床検査の必要性について説明する
	2	臨床検査の実際	種類と特徴
	3・4	生体検査	体温、脈拍、血圧新機能検査、肺機能検査、筋電図検査
	5・6	尿検査法	24 時間蓄尿、早期空腹時尿、中間尿などの採取法とその意義
	7・8	血液検査	血液検査、血液凝固検査、生化学検査免疫検査、血液検査、感染症検査
	9	採血の手順、血液型検査	静脈からの採血の方法
	10・11	感染症、肝機能、糖尿病の検査	白血球数の正常値と測定法血液像について説明する
	12・13	口腔領域の検査	口臭、味覚、歯科アレルギー検査舌、口腔粘膜、唾液の検査 歯周病、歯、根管内培養検査
	14	摂食・嚥下関連の検査	摂食・嚥下関連のスクリーニングテスト摂食・嚥下障害の検査法
	15	まとめ	今までの内容を整理する

科目名			分野	教育内容
医療安全			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	後期	1	30	講義
授業の目的	安全な医療を提供できる知識と能力をを習得する目的。			
到達目標	患者中心の質の高い、安全な医療を提供するために医療安全の必要性、重要性を認識し、必要な知識、技術を習得する。			
教科書	歯科衛生士のための 歯科医療安全管理 第2版			
評価方法	筆記試験			
実務経験教員科目	歯科医師である教員が、歯科診療所での症例を基に、スライドを用いて実践的に講義する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科医療安全管理	アクシデント インシデント ヒヤリハットハインリッヒの法則
	2	歯科医療安全管理	I 医療法の第5次改正とその後マネジメントの進め方
	3	リスク関係	リスクやミスを共有するコミュニケーション病院における医薬品安全管理の補佐
	4	医療機器の安全管理	II 医療機器の安全管理医療機器機器安全管理のための研修
	5	院内感染対策	III 院内感染対策院内感染対策体制の改善
	6	病院における院内感染	病院における院内感染対策の留意点滅菌消毒業務管理の基本
	7	歯科診療訪問における感染対策	IV 歯科訪問診療における感染対策針刺し切創防止対策
	8	感染廃棄物	V 感染性廃棄物の管理・特別管理 産業廃棄物管理移動時の配慮
	9	施設管理	施設管理推奨される掲示物
	10	医療情報	I 医療情報・個人情報における基本的な考え方個人情報プライバシー
	11	個人情報の取り扱いについて	II 個人情報の取り扱いについて情報の廃棄
	12	医療事故・医療過誤	I 医療事故・医療過誤・インシデントなぜコミュニケーションエラーがおきるか
	13	医療コミュニケーション	医療コミュニケーションの三大コアスキルインシデント・アクシデント事例
	14	クレーム背景としたトラブル	クレームを背景としたトラブル防止事例
	15	まとめ	医療安全総括

科目名			分野	教育内容
放射線学			専門	歯科診療補助論
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	1	30	講義・実習
授業の目的	エックス線についての正しい知識を身に着け、患者に不安を与えないよう適切に行動できるよう学ぶ。			
到達目標	エックス線の人体への影響の発生の危険性とその防護法について理解する。			
教科書	わかりやすい歯科放射線学第3版			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	放射線とエックス線の基本基本的知識	放射線について放射線の種類放射線の発生
	2	エックス線の発生	エックス線の発生原理
	3	放射線の影響	生体に対する影響
	4	歯科用エックス線撮影装置	口内法のエックス線装置
	5	エックス線画像の形成	エックス線フィルムの基本的構造口内法と口外法の撮影に必要なフィルムと器材
	6・7	口内法撮影	口内法撮影について説明する準備、誘導について説明する口内法の撮影法エックス線照射とその後の注意フィルムの現像と保管方法
	8・9	口外法エックス線撮影と特殊腫瘍	パノラマエックス線撮影と正常像造影検査法
	10	フィルム処理	フィルム処理の流れ現像方法処理液の交換と廃液の処理
	11	デジタルエックス線システム	デジタルエックス線撮影の特徴と種類
	12	病変の画像例	歯及び歯周組織の疾患顎・顔面領域の疾患
	13・14	放射線防護の理念と実際	放射線防御の目的被爆の分類放射線防御の実際
	15	放射線治療	放射線治療について説明する放射線治療の種類と方法副作用について

科目名			分野	教育内容
早期臨床実習			専門	臨地実習（臨床実習を含む）
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	後期	1	45	臨床実習
授業の目的	歯科医院とはどのようなものか、将来自分がどのように医療に携わっていくのか、そのために何を学ばよいか見学実習を通して理解する。将来目指す歯科衛生士職の動機付けを目的とする。			
到達目標	実体験を通して専門的能力を習得する。医療従事者としての基本姿勢や倫理規範を学ぶ。			
教科書	各科目の教科書、臨床実習要項			
評価方法	実習指導者による実習内容の評価			

授業計画	授業内容
	早期臨床実習の概要説明 歯科診療所における早期臨床実習 ・説明と目標 【授業形態】 ・2人1組にて見学実習を行う。 実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。 【履修上の注意】 見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。
	見学実習後は各自がレポートにまとめるため、学んだことや、気づいたことをメモに残し整理しておく。 【全体の行動目標】 歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。
	・時間厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務 ・体調管理

科目名		分野	教育内容	
臨床実習 I		専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	後期	8	360	臨床実習
授業の目的	臨床の場において歯科衛生士業務に必要な歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助等基本技術の学びを深める。			
到達目標	症例にあわせたアシスタントワークができる。実習先のスタッフや患者様とコミュニケーションがとれる。			
教科書	各科目の教科書、臨床実習要項			
評価方法	実習指導者による実習内容の評価			

	授業内容
授業計画	臨床実習の概要説明 歯科診療所における臨床実習 ・説明と目標 【授業形態】 ・2人1組にて見学実習を行う。 実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。 【履修上の注意】 見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。 実習した内容を正しく理解し把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を実習日誌に記録し、指導者より点検及び指導を受ける。 【全体の行動目標】 歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。 ・時間の厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務・体調管理 ・診療体系を理解し、実践できる ・診療前準備、後片付け ・患者の受診準備 ・基本的診査器具 ・診査診断の補助 ・診療の流れに応じた補助・介助 ・使用機材の管理 ・薬剤の種類、用途、保管方法 ・消毒・滅菌方法 ・防護法の実際 ・医療廃棄物の実際他職種業務を理解し、チーム医療を実践する。 ・感染予防対策を理解し、実践する。 ・患者への接し方を理解し、実践できる。

科目名		分野	教育内容		
臨床実習Ⅱ		専門	臨地実習（臨床実習を含む）		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	
3	前期	10	450	臨床実習	
授業の目的	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。歯科医療の現場で学内での学びを総合的にとらえ基本技術、知識を向上させる。				
到達目標	症例にあわせたアシスタントワークができる。実習先のスタッフや患者様とコミュニケーションがとれる。				
教科書	各科目の教科書、臨床実習要項				
評価方法	実習指導者による実習内容の評価				

	授業内容
授業計画	臨床実習の概要説明 歯科診療所、病院における臨床実習 ・説明と目標 【授業形態】 ・2人1組にて見学実習を行う。 実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。 【履修上の注意】 見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。 実習した内容を正しく理解し把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を実習日誌に記録し、指導者より点検及び指導を受ける。 【全体の行動目標】 歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。 ・時間厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務・体調管理 診療体系を理解し、実践できる ・診療前準備、後片付け ・患者の受診準備 ・基本的診査器具 ・診査診断の補助 ・診療の流れに応じた補助・介助 ・使用機材の管理 ・薬剤の種類、用途、保管方法 ・消毒・滅菌方法 ・防護法の実際 ・医療廃棄物の実際他職種業務を理解し、チーム医療を実践する。 感染予防対策を理解し、実践する。 患者への接し方を理解し、実践できる。

科目名		分野	教育内容	
臨地実習		専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	前期	2	90	臨地実習
授業の目的	2年生の臨床実習で習得した、基本技術、知識をより向上させる。公衆衛生活動における福祉施設との役割を理解し、利用者の口腔ケアの重要性を理解し、援助できる技術を修得する。			
到達目標	各施設における歯科衛生士の業務を実践することで歯科衛生士の役割を理解する。指導者の指示のもと、自ら考えて行動できるようになる。			
教科書	各教科の教科書 臨床実習要項			
評価方法	実習指導者による実習内容の評価			

	授業内容
授業計画	臨床実習の概要説明保健センター、保育園、社会福祉施設における臨床実習 1) 実習の目的と計画 【障害者歯科】 障害者の口腔機能の向上と、QOLの向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人及び介助者への対応と援助の能力を養う。 ・ 障害者の要介護度と全身状態の理解 ・ 障害者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・ 専門的口腔ケアの見学及び介助 【介護老人保健施設・特別養護老人ホーム】 要介護高齢者の精神的・身体的特徴及び、口腔機能・口腔内の特徴を理解したうえでの歯科衛生士の取り組み方と具体的な 口腔機能評価、手技、対応を学ぶ。 ・ 施設利用者の要介護度と全身状態の理解 ・ 施設利用者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・ 専門的口腔ケアの見学及び介助 【保育園実習】 児童への口腔衛生活動を円滑に展開するために、心身の発達や学習段階、日常生活行動などを理解し、その対応法を学ぶ。 児童と円滑なコミュニケーションを取る能力を養う。 ・ 年齢に合わせた歯科保健指導案の作製 ・ 児童に対する口腔衛生集団指導の実施

科目名			分野	教育内容
介護技術学			選択必修	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
2	前期	2	30	講義
授業の目的 到達目標	基礎介護技術について根拠を学び、より安全に実践できる能力を身に着ける。また、個人の尊厳を尊重した介護ができる能力を学ぶ。			
	長寿社会にあたり医療、福祉の連携を十分に理解し、より実践的なサービスを習得する。			
教科書	こだわりのポイントはココ！からだを正しく使った移動・移乗技術			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	介護概論	介護の基本的な理念
	2	健康状態の把握	血圧、脈拍、呼吸測定
	3・4	介護の基本	居室の環境整備住宅改修・福祉用具
	5・6	介護の基本	介護に関係した体の構造や機能の基本体位変換 ボディメカニクスについて説明する
	7	基本介護技術	人体の構造と機能について説明する
	8・9	基本介護技術	衣類の着脱介助、褥瘡、廃用症候群視覚障がい者の歩行介助食事介助
	10	清潔の介助	部分清拭、足浴
	11	清潔の介助	手浴、爪切り等
	12・13	移動介助	車いすの各部位と名称と点検方法車いすの扱い方、ベッドから車いすの移乗介助の方法
	14	介護における口腔ケア	口腔ケアと薬の投与方法について説明する
	15	ケア計画の作製と記録及び報告	ケアマネジメントの視点と方法

科目名			分野	教育内容
リハビリテーション学			選択必修	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	2	30	講義
授業の目的	歯科診療だけでなく訪問歯科診療時に高齢者や各疾患患者理解との身体補助方法を学び、より安全に歯科医師の補助ならびに歯科衛生士業務が行えるよう学ぶ。			
到達目標	リハビリテーションに必要な基本的な知識や技術を習得する。			
教科書	リハビリテーション概論 医歯薬出版			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	リハビリテーション学概論	リハビリテーションの歴史
	2	リハビリテーションの理念	障がい論、3つの障害（機能的、能力的、社会的不利）について説明する ICIDH、ICFの定義と概念
	3～6	チーム医療としてのリハビリテーション	リハビリテーションにおける医学的スタッフ・社会的スタッフについて説明するチームとして歯科衛生士の役割を理解する職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション教育的リハビリテーションについて説明する
	7～9	リハビリテーションに関わる疾患	脳血管障害の病態と障害像について説明する整形外科（運動器）疾患と障害像について説明する内部障害（心疾患・呼吸器・代謝）と障害像について
	10	認知症や高齢者の特性	認知症の対応について高齢者のロコモティブシンドローム、フレイルについて
	11	福祉用具と住宅改修	福祉用具各種類、使用方法について説明する住宅改修の理解と方法について
	12	転倒予防、地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概念高齢者の転倒予防事業について説明する
	13	片麻痺での介助（実習）	片麻痺での起き上がり・車いすからベッドへの介助
	14	高齢者・障がい者の介助（実習）	寝返り、立ち上がり、移乗方法、歩行介助を実践
	15	まとめ	今まで学んだことの振り返り

科目名			分野	教育内容
摂食・嚥下機能療法			選択必修	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	1	15	講義
授業の目的	摂食・嚥下障害を理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチにおいて、歯科衛生士として役割を果たすことができる知識と技能を修得する。			
到達目標	1. 摂食嚥下の基本的知識を理解し、摂食嚥下機能のメカニズムについて説明する。 2. 摂食嚥下障害の診査、検査、評価、診断について説明する。 3. 摂食嚥下リハビリテーション、口腔への対応について説明できる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割を説明できる。			
教科書	歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 医歯薬出版			
評価方法	筆記試験 80%、小テスト 10%、講義参加姿勢 10%の結果に基づき総合的に評価する。			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	摂食嚥下の基本的知識	摂食・嚥下とは 摂食嚥下に関わる器官、解剖学的構造について説明する
	2	摂食嚥下機能のメカニズム	正常な摂食嚥下運動について説明する。 摂食嚥下機能のメカニズムを説明する。
	3	摂食嚥下機能の診査、検査、評価、診断	摂食嚥下機能評価について説明する。
	4	病態別摂食嚥下障害	小児・障害児における摂食嚥下障害 成人・高齢者における摂食嚥下障害
	5・6	オーラルフレイルと口腔機能低下症 口腔機能管理・口腔衛生管理・口腔ケア	オーラルフレイルの定義と全身に及ぼす影響口腔機能低下症について説明する。 口腔機能低下症について説明する。 成人・高齢者の口腔健康管理について
	7	摂食嚥下障害の訓練とリハビリテーションの実際	摂食嚥下リハビリテーション（間接訓練・直接訓練） 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割 とチームアプローチ
	8	摂食嚥下障害と栄養管理	摂食嚥下障害に必要な口腔への対応
		摂食嚥下障害と栄養管理	摂食嚥下障害者の栄養管理と低栄養への対応

科目名			分野	教育内容
救急処置			選択必修	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
1	通年	2	30	講義／実習
授業の目的	歯科衛生業務を行うために必要な救急蘇生法を学ぶ。			
到達目標	生命徴候のアセスメントができる。歯科治療における偶発症の理解と対応ができる。救急時 BLS の知識の獲得、AED の正しい使用方法がわかる。吸引法の知識と技術方法がわかる。			
教科書	資料配布			
評価方法	実技試験・レポート			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	歯科治療における偶発症	歯科治療中の全身的偶発症歯科治療時の不快事項
	2	一次救命処置	心肺蘇生法 CPR・胸骨圧迫と人工呼吸
	3	バイタルサイン	血圧・脈拍・体温
	4	バイタルサイン	呼吸・動脈血酸素飽和度グループにて血圧・脈拍・呼吸・酸素飽和度実習
	5	小児の窒息対応	乳児及び小児に対する BLS 乳児の脈拍測定
	6	小児の窒息対応	胸骨圧迫・人工呼吸気道異物除去
	7	救命処置技術の習得と維持	一次救命処置の重要性蘇生教育
	8	まとめ①	聴診器取り扱いバイタルサイン（血圧・脈拍・体温）
	9	まとめ①	呼吸・酸素飽和度聴診器・バイタルサインの実習
	10	～心肺蘇生について～	CPR について 救急処置事例について
	11	まとめ②	神経性ショック過換気症候群・異物除去の誤飲・誤嚥
	12	まとめ②	糖尿病胸部痛・アナフィラキシーショック
	13	心肺蘇生法の実技	胸骨圧迫・人工呼吸・AED 説明・実技（練習）
	14	心肺蘇生法の実技	実技試験の説明・練習 実技試験
	15	まとめ③	成人一次救命処置・小児一次救命処置一次救命処置のポイント・まとめ レポートの説明

科目名			分野	教育内容
災害歯科衛生士支援論			選択必修	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	1	15	講義
授業の目的	災害が発生したときに、歯科衛生士としてどのようなことができるのか。過去における大規模災害を通して、災害ということを考えるとともに歯科衛生士の活動について理解し述べることができる。			
到達目標	1. 災害とは、について説明できる 2. フェーズの分類が説明できる 3. 災害発生時の医療、歯科医療を理解する			
教科書	教資料配布			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	災害とは	災害について説明し、過去の大規模災害を通して、歯科衛生士会の活動等について説明する
	2	フェーズの分類	フェーズの分類を把握したうえで歯科衛生活動について考える（グループワーク）
	3	災害時の医療、歯科医療	災害時の医療及び歯科医療について学ぶ
	4	ビデオ視聴	過去の大規模災害時のビデオを視聴し、災害活動及び歯科衛生活動を考える（グループワーク）
	5・6	日本における歯科衛生活動	日本歯科衛生士会の歯科衛生活動等について説明し、活動の仕方を考える
	7	日本における歯科衛生活動	日本歯科衛生士会の活動等を参考に、再度歯科衛生活動について考える
	8	まとめ	授業を学んだうえで、歯科衛生士として災害時に何ができるのか、グループワーク（レポート提出）

科目名			分野	教育内容
卒業考査			選択必修	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法
3	後期	1	15	講義
授業の目的	国家試験対策として過去の国家試験出題問題を精査し、繰り返しの学習を徹底して知識の定着を図る。			
到達目標	学生の習熟度による個別的指導を行い確実に国家試験に合格できる学力をつける。			
教科書	国家試験問題資料			
評価方法	筆記試験			

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	国家試験対策	国家試験の傾向と対策 ・問題数の多い科目の出題傾向 ・難易度の問題に注目する ・類似問題を活用する
	2	国家試験対策	・人体の構造と機能
	3・4	国家試験対策	・人体の構造と機能 ・歯・口腔の構造と機能 ・成り立ち及び回復過程の促進
	5	国家試験対策	・歯・口腔の健康 ・予防に関わる人間と社会の仕組み
	6	国家試験対策	・歯科衛生士概論・臨床歯科医学 1
	7	国家試験対策	・臨床歯科医学 2
	8	国家試験対策	歯科予防処置論／歯科保健指導／歯科診療補助